



加藤さん(右)のアドバイスを受けながら
ブラインドサッカーを体験する参加者

ブラインドサッカー体験 文京

1/8 説文

障害への理解を深めてもらおうと、文京区の文京シビックセンターで7日、ブラインドサッカー体験会と同競技の日本代表強化指定選手・加藤健人さん(30)らによるトークショーが開かれた。

ブラインドサッカーは視覚障害者らが行うパラリンピックの正式種目で、転がる時に音が鳴るボールを使用。ボールの音やゴールの裏にいるガイドらの指示を受けながらプレーする。

イベントは区の主催で、地域の保育園児や大学生らが参加。体験会では、アイマスクをした参加者たちが、音や感触、加藤さんら周囲のアドバイスを頼りに足でボールを運んでいた。ボールがどこにあるか分からなかったり、空振りしたりする参加者もいたが、楽しそうにプレーしていた。

体験した跡見学園女子大3年の瀬田川果奈さん(20)は「ボールを細かく足で運ばないと、どこに転がるか分からず、とても難しかったです。選手たちがいかにすごいのか、改めて実感した」と話していた。

トークショーでは、加藤さんと、障害者が暮らしやすい社会を目指すNPO法人「ピープルデザイン研究所」(渋谷区)の須藤シンジ代表理事(52)が、「監督やガイドなど味方の声を基にイメージしながらプレーする。周囲との連携が重要」とブラインドサッカーを紹介した。